

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402143		
法人名	有限会社みずほ福祉サービス		
事業所名	グループホーム「みずほ野」		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町西郷己797番地		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた当事業所は環境に溶け込む外観を備えている。事業主が造園業も営んでいるため自然を活かした造作がなされている。自然の持つ癒しの部分と介護のマンパワーを融合させたサービスを理想としている。

利用者がデッキにて滝の水音を愉しんだりできる庭園、露天風呂の他、畑には四季の野菜を育てて収穫する愉しみと「入居者もスタッフも幸せに」をスローガンとし人の痛みがわかる心を持った職員の育成とケアの均一化に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームみずほ野は、地域の人にとって馴染み深い雲仙のふもとで自然豊かな景観を生かし、入居者ひとりひとりがゆっくりとくつろげる空間を大事に支援に努めています。代表者は各職員の力量を上げることに努め、また職場環境を整備しながら、入居者やご家族が一日一日を充実して過ごすことができるよう入居者の思いをくみ取り支援に努めています。入居者が安心できる生活につなげるために、今、自分たちに何ができるのか、お互いに声を掛け合いながら職員間で生じる差異をなくす取り組みがなされています。今年度は、将来的に新しい事業への参入を視野に入れ、業務権限の一部を職員に任せるなど職員の意識改革とモチベーションを高める取り組みを始めました。職員の目的意識や責任感が強化され、職員全体が運営に関わることで介護の質を上げていく姿に、今後ますます期待感の持てるホームと言えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 南棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スローガンを掲示し会議や申し送りの時に話をすることがある。相手の立場になって考え支援することを目指している。	入居者や職員が充実感を得られるよう、一日一日を大切に過ごすことを意識し、支援の在り方や方向性を会議や申し送りで共通認識しながら支援に努めています。「入居者もスタッフも幸せに」とのスローガンを掲げ入居者や家族が来てよかったと思ってもらえるような施設づくりを目指し支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、地域の青年団や島原農業高校の和太鼓同好会のボランティアや職場体験学習の受け入れを行っている。	地域での季節行事を入居者と一緒に楽しむことを意識し、初詣や地域の神輿、また地元保育園との芋掘り交流などで地域住民との交流が図られています。地域性を生かした介護がホームの強みであるとの認識を持っており、職員全体が地域との接点について課題意識を持ち関わるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験学習の受け入れ、地元老人会や個人からの慰問や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回のペースで行っており、消防署などを含めた取り組みとなっている。	推進会議ではホームの運営状況や支援の考え方を伝え、参加者が自由に発言できる雰囲気を中心にしながら話し合いが進められています。今年度は行政からの実地指導結果報告や消防署からの予防監査での様子を示し、改善報告や現在の課題等ホームの状況を説明しました。運営の透明性を意識するよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や福祉事務所との仲介役をしている。	地域ケア会議に出席し、地域の課題や困難事例について情報交換が行われています。推進会議には市の担当者の出席もあることから、介護保険業務についての動向など情報をもらい、また実地指導での指摘を早急に改善につなげるなど、適切な運営に向け意識を持って関わるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で議題にあげたりまたはその弊害を考えて身体拘束をしない方向に努めている。	ホームは「身体拘束ゼロ・しない方針」で入居者と関わり、今年度は言葉遣いについて課題意識を持ち支援に努めました。行動を制限する弊害を職員間で理解し、話し合いの機会を持ちながら見守りの強化やベッドの高さ等住環境を整え事故発生を防ぐよう取り組んでいます。ヒヤリハットを記録することで事故に対する意識や入居者の観察力を上げるにつながっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者として絶対に行ってはいけないもので、自分達が発する言葉が言葉の暴力にならないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護対象者はまだ居ないが、包括支援センターや御家族に経験者がおられるのでアドバイスを受けられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関しては不安、疑問がない様に見学や面談に時間をかけ行い理解、納得されるまで行う様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来訪されたとき管理者、主任以外でも要望等を聞き取り職員ノートに書き込み会議にかけている。	アットホームな関係づくりを目指し、入居者や家族の声に耳を傾けながら、安心して生活できる環境作りに努めています。職員は入居者と接する際は笑顔を持って関わり、電話や便りを通して暮らしぶりをわかりやすく伝えることで本人と家族とのつながりが途切れないよう努めています。今後は職員の異動についても家族に周知し、さらなる信頼関係を深める取り組みが望まれます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議とケア会議を開催し、目標や行事、気になる点について話し合いの時間をもっている。	定期的な会議のほか、日常的に職員間でコミュニケーションをとりながら職員全体がホームの運営に意識を持って取り組んでいます。施設長は次の事業展開を見据えて職員の意識改革に取り組んでおり、管理者や主任がOJTを行いながら介護職の質を上げるよう努めています。	現在、職員の力量を上げ、職員が自ら運営に意欲を持って取り組めることは管理職員の中でも課題ととらえており、理念や基本方針をより具体的に行動に落とし込むなど、さらなるサービスの質の向上に向けた取り組みに期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所としてスタッフの無理がないように気がけている。代表者、管理者、主任が個別に相談にも乗るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、各種セミナーへの参加、スタッフ会議でも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島半GH連絡協議会への加入、交流会の多施設への招待している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、訪問行い、その時に納得をしてもらえるまで時間をかけて行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院や他施設の担当者だけではなく御家族にもお話を聞いて温度差がないよう安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時その時は個人で違うが事業所側の押し付けにならない様にその人に合った相談窓口になるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の元に押し付けとならぬようその方の想いを感じ考え関係性を築きたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個人、家族の思いを汲みパイプ役になるよう気がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所や親類の方への声かけ、来所しやすい関係づくり、家族交流会の開催を行っている。	入居者との会話の中で、本人がこれまで大事にしてきた人や場所について、できるだけ情報を収集し関係者と協力しながら本人の気持ちに寄り添い対応しています。外出や面会時間に大きな制約を設けず、自由に面会の機会を設けることで不安感や寂しさ等、本人の思いが理解できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれ1人1人個性があり、違いもあるためスタッフが間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会えた「ご縁」を大切にし、いつでも一緒に悩み、喜び、悲しむ事が大切だと思いながら支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員連絡ノートを活用し入居者の事を記入し、入居者の表情、行動から思いを汲みとる様に心掛けている。	その日にあった出来事や会話のエピソードを「職員ノート」に記録し、入居者の思いや意向を共通認識できるよう努めています。職員は入居者との会話で得られたエピソードをもとに家族と協力し、趣味や日課などそれぞれに応じた過ごし方を把握し、本人の思いに寄り添うよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や御家族の聞きとりから始め、なじみの関係を築き普段の話からも把握できる関係性を持てる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	押し付けにならない様、それが負担にならない様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を月1回開催し、スタッフ全体でその方の顔を思い浮かべスタッフの介護計画にならない様に心掛けている。	入居者本人の思いを考慮しながら作成されたケアプランは、家族や本人の意向を確認しながら担当職員、また関わる職員で話し合いを持ち作られています。実施状況の記録で、計画がその方にあったものであるかを定期的に確認、評価し、その方にとってよりよい生活につながる計画書となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、チェック表等をスタッフ全員で共有し申し送り時や会議等で話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思いは日々変化していくものであることからいろんな方向で物事を考え実行するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元や関係各省への協力依頼、開かれた場所と思われる事業所を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関の下、管理者・主任が支援するスタッフへアドバイスをを行っている。	定期受診はホーム職員が付き添い、日頃の健康状態を担当医に伝えながら適切な医療が受けれるよう努めています。医師へは日頃の些細な体調変化や、支援の中での気づきを適切に伝え、治療方針や介護上での留意点を職員間で共通認識を持って関わるができるよう努めています。ホームには医師や薬剤師の往診があり、細かな内服の調整も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や往診をお願いしており、その際はスタッフが付いて相談や気になることを相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクター、病棟、連携室と情報交換を行いその人のその時に1番いい場所を提供できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに移行する時は病院との連携を図り家族との話し合いをし病院搬送を行っている。	これまでも家族や医師との終末期に向けた話し合いの機会を持ちながら、入居者本人や家族が納得できる終末期を迎えることができるよう体制を整え支援に努めています。「ここがよか」と家族から要望があった際には、家族や医師、訪問看護と連携を取り、体調変化があることに対応方法を検討し支援に努めています。今後も職員の力量を上げ入居者や家族が満足できる看とりの方法を検討していく意向にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修や避難訓練時に消防署からアドバイスを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練は夜間想定も行っているが災害対策については消防署からアドバイスを受けている。	定期的な避難訓練では入居者の体調を見ながらできるだけ参加を促し、時間短縮やスムーズな避難活動ができるよう、新人職員を中心に実効性の高い訓練に努めています。今年度は立地条件や地域性を考慮し、津波などの風水害について消防署と話し合いの機会を持ちました。備蓄品についても徐々に数量を増やしていく意向にあり、今後も継続した取り組みが望まれます。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者が元ホテルマンで接遇のマナーについて会議で話し、訓練を行っている。声のトーン大きさに気をつけている。	入居者や家族とお互いに心地よく過ごすために思いやりの気持ちや意識を持って関わり、声のかけかたやトーンについて重点的に注意するよう努めています。一貫性のあるサービスが提供できるよう介護業務の効率化を優先した関わりに注意し、言葉遣いや入居者、家族への関わり方など職員がお互いに注意しながら介護の質を上げていく取り組みがなされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散髪・買い物等の訴えがあった場合には出来るだけ早急に対応するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われスタッフ主導になりがちになりそうだが、振り返り入居者のペースを大切にしようと努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する時、本人の意向も聞きながらTPOに合わせてスタッフが気掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で収穫した野菜を食材として提供し、気候によっては入居者と一緒に収穫し、各人のレベルに応じた食事パターンを用意している。	季節ごとの献立を積極的に取り入れ、視覚や味覚から入居者に季節感を感じてもらえるよう努めています。おせち作りでの調理の参加や、その時々旬の野菜に触れながら入居者は食事を楽しんでいます。食材の持つ食感を大事にし、入居者の身体に応じて食器や盛り付け方を工夫しながら入居者に負担なく自力摂取できるよう検討しています。中でも炭火焼で調理するサンマ会は入居者も楽しいイベントとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食に関してはこれから重要な物となっていくこととなるので管理栄養士への相談、アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフの見守り、介助にて毎食行い、訪問歯科もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護日誌、チェック表にて記録し排泄パターンを把握し誘導、夜間の安眠確保、訪問看護による支援、アドバイスを受けている。	いつまでも排泄を人の目にさらしたくない思いを理解し、職員は生活の中で体操や身体を動かすことを意識しながら個々に応じたケアを検討しています。職員は入居者ができるだけ失敗せずトイレで排泄できるよう排泄パターンを把握し、安心してもらえる声かけを行いながら支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取・食物繊維の多い献立作りを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は希望があれば毎日でも入浴可。冬場はヒートショックを防ぐため脱衣所にヒーター設置。季節を感じてもらえるように菖蒲湯やゆず湯を愉しんでもらっている。	入居者が楽しみを持ちながら入浴ができるよう季節のお湯や、入浴方法を検討しながら支援に努めています。本人がリラックスして入浴できるよう、同姓介助や入浴のタイミングも無理強いせず、清潔感を保持しながらひとり一人に応じた介助方法を職員間で話し合い声かけ工夫し支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録やチェック表を元に生活パターンの把握ここに合わせた生活サイクルで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性、薬の危険性を申し送り、会議等で議題にあげスタッフ全体で考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の能力・個性・関係性を考え応じた役割を持って気分転換を果たしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は施設周辺の散歩、庭園観賞、職員によるドライブで好きな場所へ行かれている。	入居前の暮らしぶりから時には家族と協力し、その方に応じた外出方法が検討されています。外に出る機会を大事に考え、少人数で季節に応じた外出先に出かけています。天候や時期によって行き先を臨機応変に変更しながら本人の思いの理解や入居者自身がこれからの生活に意欲を持って過ごすことができるよう努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本トラブルにならない様に預かり金としており、買い物等の時はスタッフと出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話手紙も「縁」のものなので子機も切手もいつでも準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かい雰囲気作りや入居者の方の当たり前の生活を大切にし、明るい雰囲気づくりに努めている。	入居者が毎日の暮らしに安心感を持って関わる事ができるよう、職員はあたたかな雰囲気作りを大事にした共用空間作りがなされています。入居者が安全に移動できるよう家具や座席の配置を検討し、また入居者が自由に食堂の食器や冷蔵庫を使用できるなど、入居者が安心感を持って自宅での生活が延長できるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのグループがあるのでいくつかのゾーンに分けている。お互い気の合う方同士居室で話されたり廊下で話したりされておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差あるもののなじみの品を持ちこまれたりない場合はスタッフが淋しくならない様に気がけて自分の部屋と思って頂けるように配慮している。	自宅で使っていた家具や手回り品の持ち込みがあり、家族と相談しながら入居者が寛ぎの空間で自分らしい生活が送れるような部屋作りがなされています。家具の向きや高さなど本人が使いやすいよう考慮され、家族の面会時にも個室でゆっくりと会話を楽しめるような雰囲気作りを大事にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方々が新しいスタッフに教えている光景が見られ、ほほえましく思える時がある。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 東棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スローガンを掲示し会議や申し送りの時に話をすることがある。相手の立場になって考え支援することを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、地域の青年団や島原農業高校の和太鼓同好会のボランティアや職場体験学習の受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の福祉体験学習の受け入れ、地元老人会や個人からの慰問や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回のペースで行っており、消防署などを含めた取り組みとなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や福祉事務所との仲介役をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で議題にあげたりまたはその弊害を考えて身体拘束をしない方向に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者として絶対に行ってはいけないもので、自分達が発する言葉が言葉の暴力にならないように気をつけている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護対象者はまだ居ないが、包括支援センターや御家族に経験者がおられるのでアドバイスを受けられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関しては不安、疑問がない様に見学や面談に時間をかけ行い理解、納得されるまで行う様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来訪されたとき管理者、主任以外でも要望等を聞き取り職員ノートに書き込み会議にかけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議とケア会議を開催し、目標や行事、気になる点について話し合いの時間をもっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所としてスタッフの無理がないように気がけている。代表者、管理者、主任が個別に相談にも乗るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、各種セミナーへの参加、スタッフ会議でも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島半GH連絡協議会への加入、交流会の多施設への招待している。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学、訪問行い、その時に納得をしてもらえ るまで時間をかけて行っている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院や他施設の担当者だけではなく御家族 にもお話を聞いて温度差がないよう安心して いただけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	その時その時は個人で違うが事業所側の 押し付けにならない様にその人に合った相 談窓口になるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の元に押し付けとならぬようその方の 想いを感じ考え関係性を築きたいと思っ ている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	個人、家族の思いを汲みパイプ役になるよ う気がけている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所や親類の方への声かけ、来所しやすい 関係づくり、家族交流会の開催を行ってい る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	それぞれ1人1人個性があり、違いもあるた めスタッフが間に入るようにしている。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会えた「ご縁」を大切にし、いつでも一緒に悩み、喜び、悲しむ事が大切だと思いながら支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員連絡ノートを活用し入居者の事を記入し、入居者の表情、行動から思いを汲みとる様に心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や御家族の聞きとりから始め、なじみの関係を築き普段の話からも把握できる関係性を持てる様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	押し付けにならない様、それが負担にならない様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を月1回開催し、スタッフ全体でその方の顔を思い浮かべスタッフの介護計画にならない様に心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、チェック表等をスタッフ全員で共有し申し送り時や会議等で話し合いの場を持っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思いは日々変化していくものであることからいろんな方向で物事を考え実行するように心掛けている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元や関係各省への協力依頼、開かれた場所と思われる事業所を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関の下、管理者・主任が支援するスタッフへアドバイスをを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や往診をお願いしており、その際はスタッフが付いて相談や気になることを相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクター、病棟、連携室と情報交換を行いその人のその時に1番いい場所を提供できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに移行する時は病院との連携を図り家族との話し合いをし病院搬送を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修や避難訓練時に消防署からアドバイスを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練は夜間想定も行っているが災害対策については消防署からアドバイスを受けている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者が元ホテルマンで接遇のマナーについて会議で話し、訓練を行っている。声のトーン大きさに気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散髪・買い物等の訴えがあった場合には出来るだけ早急に対応するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われスタッフ主導になりがちになりそうだが、振り返り入居者のペースを大切にしようと努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する時、本人の意向も聞きながらTPOに合わせてスタッフが気掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で収穫した野菜を食材として提供し、気候によっては入居者と一緒に収穫し、各人のレベルに応じた食事パターンを用意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食に関してはこれから重要な物となっていくこととなるので管理栄養士への相談、アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフの見守り、介助にて毎食行い、訪問歯科もお願いしている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護日誌、チェック表にて記録し排泄パターンを把握し誘導、夜間の安眠確保、訪問看護による支援、アドバイスを受けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取・食物繊維の多い献立作りを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は希望があれば毎日でも入浴可。冬場はヒートショックを防ぐため脱衣所にヒーター設置。季節を感じてもらえるように菖蒲湯やゆず湯を愉しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録やチェック表を元に生活パターンの把握ここに合わせた生活サイクルで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性、薬の危険性を申し送り、会議等で議題にあげスタッフ全体で考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の能力・個性・関係性を考え応じた役割を持って気分転換を果たしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は施設周辺の散歩、庭園観賞、職員によるドライブで好きな場所へ行かされている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本トラブルにならない様に預かり金としており、買い物等の時はスタッフと出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話手紙も「縁」のものなので子機も切手もいつでも準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かい雰囲気作りや入居者の方の当たり前の生活を大切に、明るい雰囲気づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのグループがあるのでいくつかのゾーンに分けている。お互い気の合う方同士居室で話されたり廊下で話したりされておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差あるもののなじみの品を持ちこまれたりない場合はスタッフが淋しくならない様に気がけて自分の部屋と思って頂けるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方々が新しいスタッフに教えている光景が見られ、ほほえましく思える時がある。		